

PHP新書「地震予報」読者の皆様へ
No.1778長期継続大型地震推定前兆
原稿校了後の前兆変化についての続報

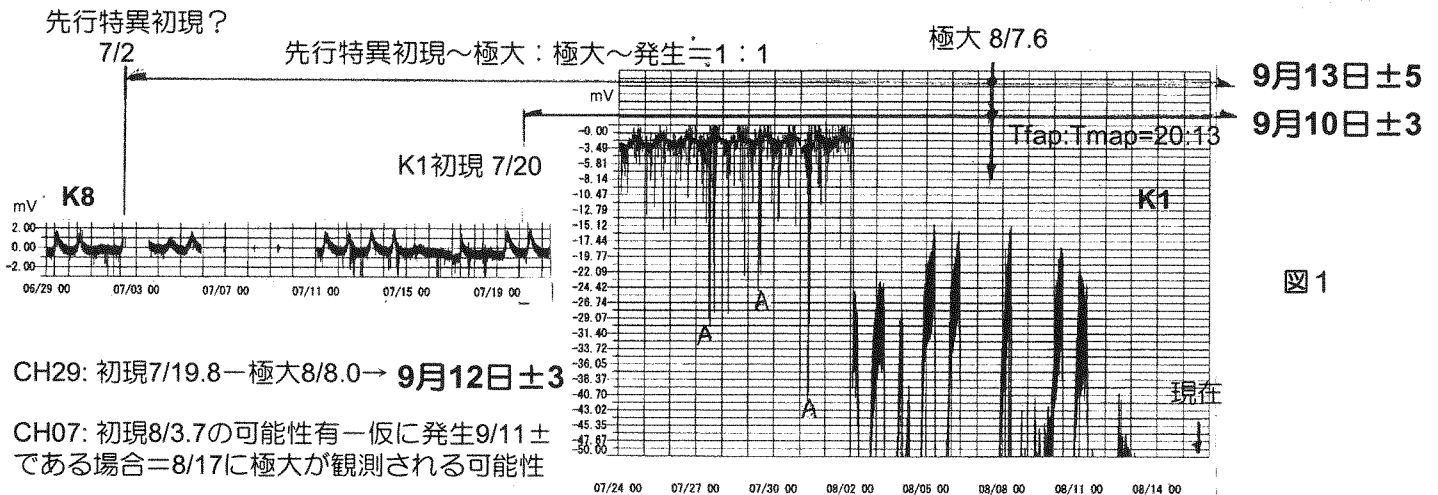
続報 No.308

2021.08/15 (日曜) 15:30 発表

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254

No.1778続報 K1特異・CH07特異等終息待ち

但し8月中発生の可能性低い 9/11±3の可能性も出るが不確定 前兆終息待ち



CH29: 初現7/19.8—極大8/8.0→ 9月12日±3

CH07: 初現8/3.7の可能性有一仮に発生9/11±
である場合=8/17に極大が観測される可能性

図1

No.1778長期継続前兆群の続報。前情報ではあくまでもK1の特異が終息するまで発生時期計算は不可能で、終息待ちであることを報告致しました。但し、高知観測点K1の特異が顕著となった8/2.1を初現と考え、8/6を極大と考えた場合は8/15又は8/16の可能性も否定はできないことも参考に記しました。

しかし、8/15午後現在、K1の特異変動もCH07の特異変動も継続中です。CH07は8/5、8/7の変動を超える変動が観測されだしています。これらの観測事実から、1) K1の初現は8/2.1以前にある 2) CH07の8/5.2 8/7.2を主極大、副極大との認識は誤りである 等が明らかです。そこで、07月まで遡って全30基の観測装置の変動を調べなおしました。

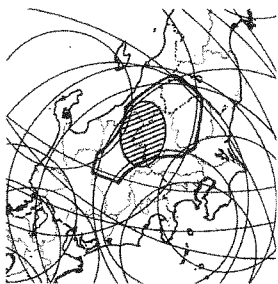
その結果、まず高知観測点K8に7/2から糸状特異が出現しています(観測情報では報告済)。K8には、図1波形の糸状特異以外は全て静穏基線です。観測装置は異なりますが、現在のK1特異に対する先行特異の可能性も考えられます。先行特異が極大前兆変動を示す観測装置と異なるケースは過去例があります。この認識が仮に正しい場合は、先行特異からは誤差が大きいです。8月中は考えにくく、図1右端記のとおりとなります。

次にK1の変動ですが、明らかに流星エコーとは異なる図1のK1波形中のA印で示したような基線から下向きの変動が7/20から出現していました。当初はEスポの可能性を考えましたが、違うようです。初現7/20、極大8/7.6としますと、9/10±3が計算できます。(※高知観測点データは7/22-23にデータファイルを更新したため、7/22から24が繋がりにません。)

さらにCH29ですが、7/19.8初現、極大8/8.0に見えます。これからは9/12±3が計算されます。このように8月中発生の可能性が考えにくくなり、9/11±3時期の可能性も考えられる見解となりました。仮に9/11±3発生が正しい場合にはCH07は調査から8/3.7が初現の可能性と認識されますので、極大は数日後の8/17±に観測されることが示唆される

こととなります。今後K1、CH29の変動が継続し、CH07に極大が観測された場合は、今回の見解が正しい可能性となります。

勿論、より早い時期発生が推定される、8月中に前述観測装置の前兆変動が終息した場合には、直ちに発生時期を計算し、ご報告させていただきます。基本的にはK1、CH07等の前兆変動終息を待ちたいと考えます。



- ◆推定領域：図2太線内領域内・斜線域参考
斜線域=浅間山・白根山等火山近傍
- ◆推定規模：M8.0±0.3
地震発生で近傍火山活発化(噴火)の可能性も有
- ◆推定時期：K1,CH07特異終息を待って計算予定
但し9月11日±3の可能性も出るが不確定
- ◇推定地震種：震源浅い陸域地殻地震
- ◇推定発生時刻：午後6時30分±2時間
(または 午前7時±3時間)

図2 推定領域図

C) Copyright 2021 YSBO 八ヶ岳南麓天文台